

## (10)九州



九州地域では、景気は緩やかに回復している。

- ・ 鉱工業生産は堅調に推移している。
- ・ 個人消費はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 雇用情勢は依然として厳しい状況だが、緩やかな改善傾向にある。

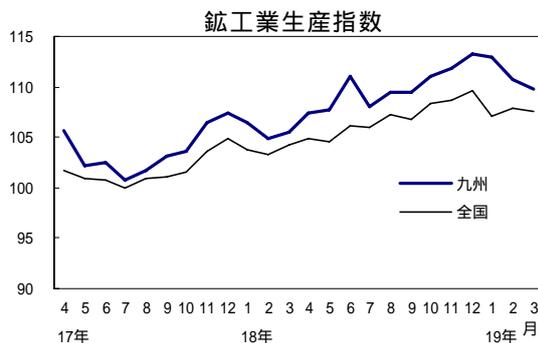
### 前回調査からの主要変更点

	前回（平成19年2月）	今回（平成19年5月）	
住宅	増加	大幅に増加	

### 1. 生産及び企業動向

#### (1) 鉱工業生産は堅調に推移している。

電子部品・デバイスは、ゲーム機向け、デジタルカメラ向け等のモス型計数回路(マイコン、CCD、ロジック)が引き続き好調なことから、増加している。輸送機械は、北米やヨーロッパ向けの普通自動車の輸出がやや伸び悩んだことや、国内向け小型自動車の販売が不調なことから減少している。一般機械は、半導体製造装置が出荷時期の後ずれから、FPD製造装置が国内外向けの受注がやや不調なことから減少している。食料品・たばこは、発泡酒、ビールが新製品の投入効果から増加している。化学は、ウレタン等の原料となるトルイレンジイソシアネートが海外からの受注が好調なことから増加している。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		10~12 月期	1~3 月期	1~3 月期	1~3 月期
電子部品・デバイス	14.9	0.8	6.7	6.8	2.2
輸送機械	11.7	5.3	2.4	2.7	12.1
一般機械	11.0	10.4	7.5	7.7	66.8
食料品・たばこ	10.8	0.3	2.3	1.2	3.3
化学	8.5	2.3	1.5	0.4	13.8
鉱工業	100.0	2.8	0.7	1.5	2.2

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い15業種。

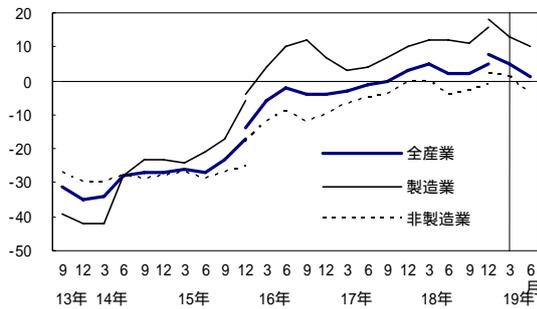
2. 1~3月期は速報値。

(備考) 1. 12年=100、季節調整値。

2. 平成19年3月の九州は速報値。

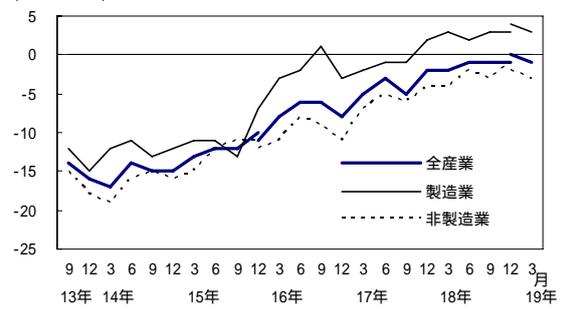
(2) 企業動向の業況判断は「良い」超幅が縮小し、資金繰り判断は「苦しい」超に転じている。  
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査

(%ポイント) 企業短期経済観測 [業況判断]



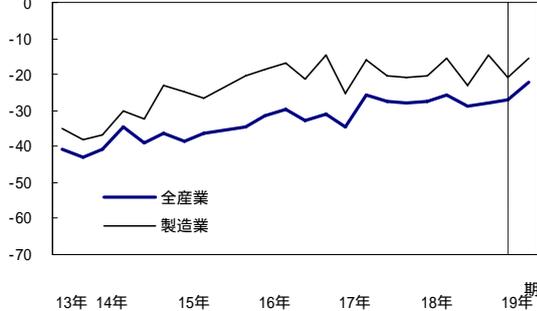
(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。19年6月は予測。  
15年12月および18年12月は新・旧基準を併記

(%ポイント) 企業短期経済観測 [資金繰り判断]



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。  
15年12月および18年12月は新・旧基準を併記

(%) 中小企業景況調査 [業況判断]



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。19年 期は見通し。

#### 景気ウォッチャー調査(4月)[企業動向関連(現状)]

「半導体関連、特に電子部品関連は在庫調整と報道されていたが、ここに来て、金型産業は順調に推移している。当社は仕事量を確保しており、悪いながらもフル操業の状態である(電気機械器具製造業)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

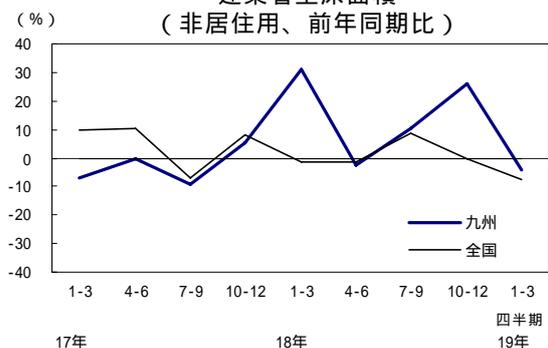
(3) 18年度の設備投資は前年度を下回る見込みとなっている。

企業短期経済観測調査 [設備投資(3月調査)]

	(前年度比、%)	
	18年度実績見込み	19年度計画
全産業	4.4 ( 0.7)	11.6
製造業	12.3 ( 0.6)	31.4
非製造業	1.3 ( 0.7)	0.8

(備考)( )は前回(12月)調査比修正率。

建築着工床面積  
(非居住用、前年同期比)



## 2. 需要の動向

(1) 個人消費はおおむね横ばいとなっている。

### 大型小売店販売額及びコンビニエンスストア販売額

百貨店は、1月は、物産展等の催事効果から食料品に動きがあったものの、気温が高めに推移し、冬物を中心に衣料品が不調だったことから、全体としては前年を下回った。2月は、飲食料品は全般的に動きが鈍かったものの、衣料品において、気温が高めに推移したことから春物の動きが良かったことや、セール効果から身の回り品が好調だったことから全体としては前年を上回った。3月は、飲食料品は生鮮食品や和菓子などに動きがみられ、前年を上回ったものの、衣料品が春物を中心に動きが鈍かったことから、全体としては前年を下回った。なお、九州百貨店協会によると、九州地区の4月の売上高は、前年同月比で2.1%の減となっている。

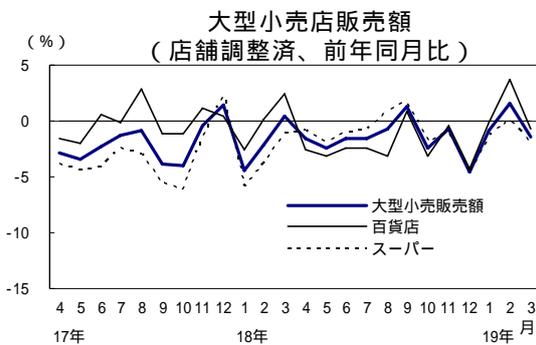
スーパーは、果物や精肉、飲料といった飲食料品に動きがみられたものの、衣料品の動きが鈍く、全体としては前年を下回った。

### 景気ウォッチャー調査(4月)[家計動向関連(現状)]

「来客数は伸びているが、グループ客の低単価が目立つため、それほど売上には貢献していない(スナック)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(前年同期比、%)

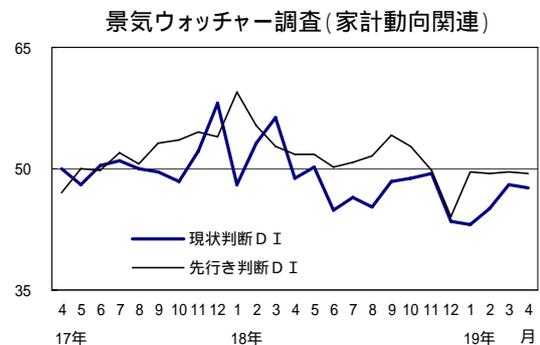
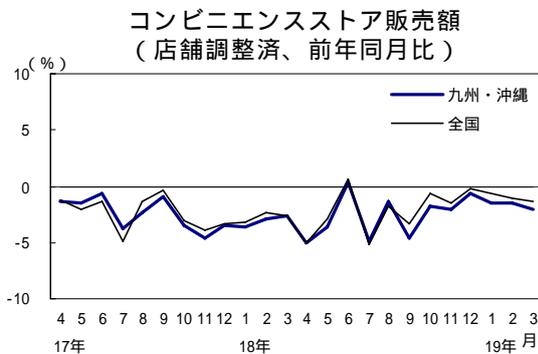
	18年4-6月	7-9月	10-12月	19年1-3月
大型小売店	1.9	0.4	2.8	0.5
百貨店	2.8	1.7	2.8	0.7
スーパー	1.2	0.5	2.8	1.3
コンビニ	2.8	3.6	1.5	1.7
景気ウォッチャー	48.0	46.7	47.2	45.4



(備考) 1. 大型小売店及びコンビニは店舗調整済。

九州・沖縄地区。

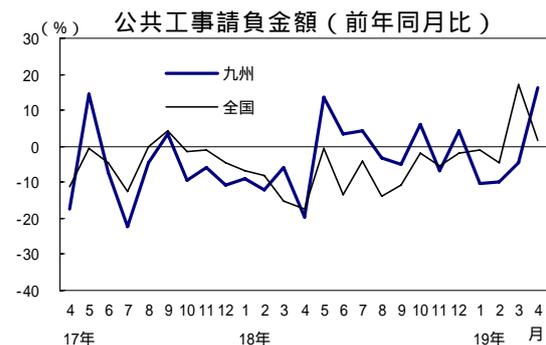
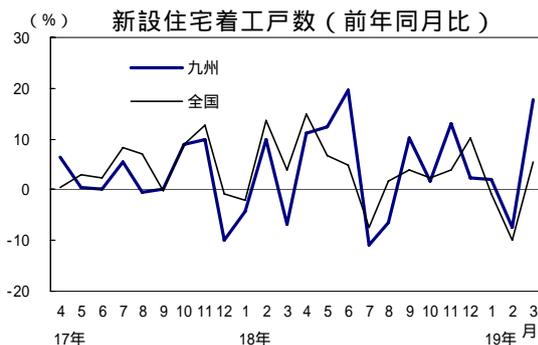
2. 景気ウォッチャーは家計動向関連の現状判断D Iの3か月平均。



(2) 住宅建設は大幅に増加している。

持家、給与が前年を下回ったものの、貸家が上回ったことから全体では大幅に増加している。

(3) 公共投資は18年度累計で見ると前年度を下回っている。

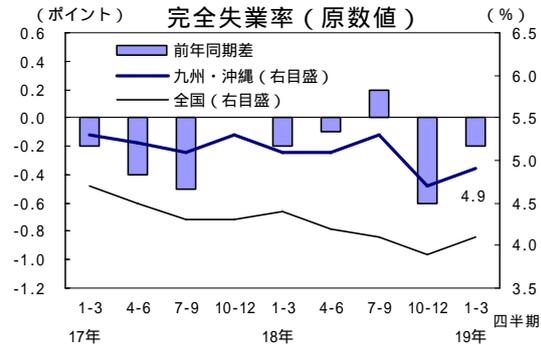
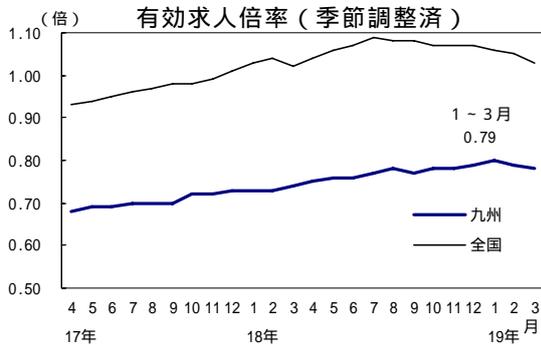


### 3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は依然として厳しい状況だが、緩やかな改善傾向にある。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率はおおむね横ばいとなっている。完全失業率は前年同期を下回っている。



景気ウォッチャー調査（4月）[雇用関連（現状）]

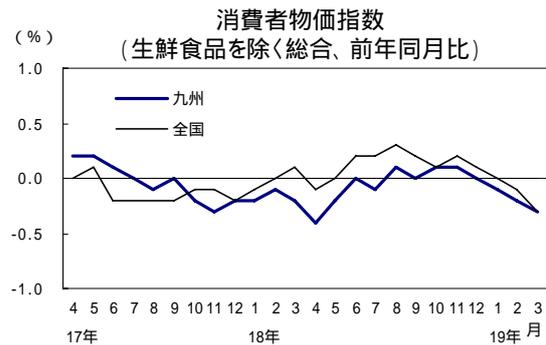
「企業の求人意欲や採用者数の動向は、依然として活発である（学校〔大学〕）」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は、負債総額は減少しているものの、件数が増加している。

(3) 消費者物価指数は下落に転じている。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	18年4-6月	7-9月	10-12月	19年1-3月	19年4月
倒産件数	286	269	281	268	85
(前年比)	9.2	0.4	18.6	3.5	3.7
負債総額	1020	483	1038	706	244
(前年比)	44.7	57.9	25.7	43.9	1.6



景気ウォッチャー調査（4月）[合計（特徴的な判断理由）]

<現状>

・これまでなかった商工会議所や地域の小売業者のゴルフのコンペが再度企画されるようになってきた（ゴルフ場）

<先行き>

・タクシー代が今月末から上がる。高齢者は少々値上がりしても今までどおり通院等に利用するだろうが、一般客が今までのように使うかどうか不安である（タクシー運転手）

景気ウォッチャー調査（合計）

